平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	３０	都道府県・指定都市名	和歌山県
ふりがな **学校名**（生徒数）	わかやまけんりつありだちゅうおうこうとうがっこう 和歌山県立有田中央高等学校（４２４人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：和歌山県有田郡有田川町下津野４５９
電話番号：0737-52-4340
学校のホームページの URL：http://www.aridachuo-h.wakayama-c.ed.jp

【研究成果のポイント】

○研究のキーワード：生活支援技術　医療的ケア　ワークシート　指導略案　評価規準

○研究成果のポイント：生徒が学習への関心・意欲を高め、主体的に取り組むことで課題に対応する能力の向上につながる授業実践を目指し、「医療的ケア」を含む「生活支援技術」の指導計画、各授業の指導略案、ワークシート、演習評価表、評価規準等を作成した。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

「医療的ケア」への課題対応能力を高める「生活支援技術」の指導法の開発

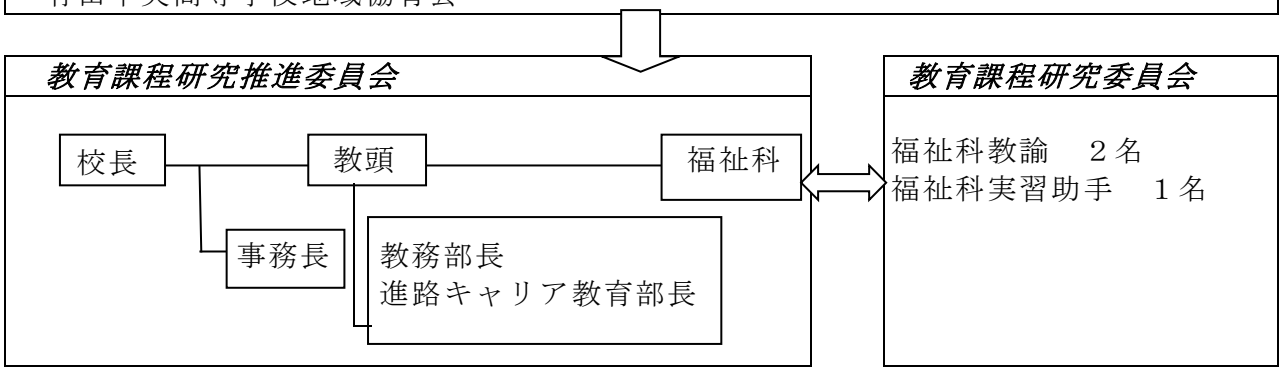
（２）研究主題設定の理由

本校総合学科福祉系列の生徒の多くは卒業時に介護福祉士の資格を取得し、近隣の福祉施設で活躍している。従前の「生活支援技術」においては、基本的な知識・技能の修得の徹底と、様々な場面に対応した介護技術力の向上や、課題に主体的に取り組む能力を育むことに主眼をおいてきた。今回、「医療的ケア」の内容が追加されたことを踏まえ、より高度かつ広範な介護業務に携わることが出来る介護福祉士を養成するために、「生活支援技術」の効果的な指導法を開発する必要があった。

（３）研究体制

有田中央高等学校教育課程研究運営指導委員会

和歌山県教育委員会学校教育局学校指導課 福祉担当指導主事･教育課程研究担当指導主事
有田中央高等学校地域協育会



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	・「医療的ケア」を含む「生活支援技術」の指導略案、ワークシート、評価規準、年間指導計画等の作成 ・「生活支援技術」の公開授業と研究協議 ・第１回教育課程研究推進員会（6月13日） ・第１回教育課程運営指導委員会（7月1日） ・第２回教育課程研究推進員会（10月9日） ・教科調査官学校訪問及び第２回教育課程運営指導委員会（10月11日） ・埼玉県立誠和福祉高等学校訪問（12月6日） ・第３回教育課程運営指導委員会（１月20日）

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○次の１～８の資料を保存したＤＶＤを作成し、各福祉系高校に配布した。

１．「医療的ケア指導計画」

「医療的ケア」の習得に必要な講義及び演習が効果的に展開でき、毎時の授業の概要や目標が的確に把握できる指導計画を作成した。

２．「指導略案」

毎時の授業について、板書型の「指導略案」を作成した。授業のねらいを明確にすることで、基礎・基本の知識と技術を確実に獲得させるとともに、思考力や表現力を育むための適切な課題設定が可能となり、学んだ知識を活用して考察・表現することを通じて、より良く定着させることができると考える。「指導略案」の上段が「板書計画」で、確実に習得しなければならない基礎的な知識事項や内容を示している。下段には、生徒が考察及び表現できる「ワークシート」とその活用方法を示している。

３．「講義・演習用ワークシート」

ワークシートは、生徒が主体的に取り組める内容・形式であることと、講義や演習の内容についてより深く理解でき、思考力・判断力・表現力を高められる内容となるよう留意した。

４．「医療的ケアＰＰＴ」

授業で活用できる視聴覚教材（ＰＰＴ）を作成した。

５．「医療的ケア手順」及び「医療的ケア手順ＰＰＴ」

「喀痰吸引」と「経管栄養」の標準的な手順及び確認事項を示すことに留意した。又、その手順にそった視聴覚教材（ＰＰＴ）を作成した。

６．「医療的ケア確認問題」

確認問題例を作成した。

７．「指示書等様式」「演習用指示書等」

医師の指示書等、授業に必要な様式をまとめている。

８．「医療的ケアを除く指導計画」

生活支援技術について、医療的ケアの指導に必要な時間数に配慮した指導計画と指導略案を作成した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

○「医療的ケア」に関して課題対応能力を向上するための授業展開に必要な指導計画、指導略案、その他の教材等を作成し、活用できるようになった。

（２）研究成果の意義等

○従前の「生活支援技術」に比べ、リスクの高い「医療的ケア」の知識・技術を確実に身に付けさせることは、介護福祉士養成にとって重要な課題である。生徒の興味・関心を高め、思考力を高めるための教材を作成し、又、利用者の生活支援という観点からの指導につながるよう配慮した。

今回の研究成果をベースにして、利用者の生活をより快適なものとし、生活意欲向上につながる、専門性の高い生活支援という視点での生徒の課題対応能力を高める学習指導を行うことができる。

（３）指定期間終了後の取組

○作成した指導略案やワークシート等の授業での活用状況や、生徒の授業記録や授業評価等を参考にして、年間指導計画および指導略案、ワークシート等の充実・改善を図る。

○「生活支援技術」と「こころとからだの理解」、又、他の科目との関連性に配慮した効果的な指導について研究を深める。